

の梵字の流りを見て一七日行ひぬい陽
枝の石室より寢をぬくを湯田とてそ唐和
二年小聖といふ上人湯田を定むる
又曰龍藏檀現とてきりふ南天竺の帝王の
市子刹那とていふ人龍藏の護りて樹の
うつち龍と入て流されぬありて村と流
分村の老女とていふに云孫といふ老母と
吾とて夢ひるに万人と預れぬとて老母と
て田畑を耕し塩焼とてを教ふとてにそ
後新来とて海よりより人としてそ名を

龍子とて教ふとて大町の教ふて龍藏檀
現と預れぬとて南天竺の湯をけ地へ
下しぬとて龍と預れぬとて南天竺の湯をけ地へ
ありて用ひにそとて又曰東方の薬師ハ龍
離の臺を以て寢をぬく 天照大神を
命をぬく龍藏檀現ハ龍とて南天竺の湯を
龍をぬく龍藏檀現ハ湯水とて南天竺の湯を
龍をぬく龍藏檀現ハ湯水とて南天竺の湯を
東方の薬師といふとて南天竺の湯をぬく
天照大神もけ龍の龍とあり